

強者の戦略

【どんなに短くても「変化」の問題は前後を書きましょう！】

こんにちは、暑くなって痩せてもまた戻るであろうと予想される北林です。この原稿がアップロードされるのは6月下旬に入った頃。ということは、センター試験まであと210日ほど。二次試験までそこからプラス約1ヶ月。そう考えると夏の学習の重要性を感じる事ができると思います。良い夏にしてくださいね。

今年は「スパルタン」が夏にも配信されます。体験授業も今からできます。ぜひ一度体験してくださいね。スパルトンのホームページ(東大も京大も医学部もこちらからです)

→ <http://spartan.kenshinkan.net>

さて課題となっている問題を確認しましょう。少し古めの東大の問題でした。

問題

周から春秋時代の半ばまで、黄河の中流域を本拠とする漢族の支配域のなかにも、またその周辺にも、多くの少数民族が住んでいた。

設問

春秋時代の半ばから戦国時代にかけて、漢族の有力な諸侯の国々はこうした少数民族をしだいに征服・同化し、広域国家をつくり上げていった。この時期の漢族の拡大に関係する技術上ならびに経済上の主要な変化を、解答用紙に3行(90字)以内で述べよ。

(1991年 東京大学)

ぱっと問題を見て「簡単じゃないか、そんなん、鉄製農具や牛耕農法、商業の発達で商業都市や大商人が出てきたとかを書けばいいんでしょ?」と思えた人は、まずは第一段階は大丈夫。すばらしい。

ただ、それだけではだめなんですよね。気をつけてほしいのは第二段階なんです。この問題は「変化」を書く問題。ということは、前と後を書かないとだめなんです。90字でそこまでやらないといけないのですか?と思うかも知れませんが、与えられた条件が「変化」ですから、どんなに字数が短くともそれに従って書かないといけないわけです。

《ワンポイントアドバイス》

京都大学では1991年に300字で類題が出題されていますが、他の大学でもよく出るテーマの一つで、中国史の中でいくつか見られる大変革期の一つです。

では簡単な解説を行っていきます。以下に見える画像は「京大スパルタン」で使用した画像です。

強者の戦略

問1

(問題文抜粋) 春秋時代の半ばから戦国時代にかけて、漢族の有力な諸侯の国々はこうした少数民族をしだいに征服・同化し、広域国家をつくりあげていった。この時期の漢族の拡大に関する技術上ならびに経済上の主要な変化を、90字以内で述べよ。

※変化を問う問題の場合

変化の前(変化の背景・原因)→変化の後(結果・影響)

知っているものから書いて、その前やあとを推測する。

※もし変化を思いつかなくても片方だけでも書いておく。

技術	木・石器 人力が主	鉄製農具 牛耕農法
経済	小さな村落・邑 貝貨 土地の公有	↓ →生産力向上→余剰生産物 商業発展→商業都市 貝貨+青銅貨幣 →土地の私有 大豪族・大商人出現

まず変化の問題、ですから変化の前、変化の後、を考える必要があります。タテに線を引いて考えるとわかりやすいですね。おそらく多くの人は、右側つまり変化の後を思いうかべたと思います。それは大切。ではその前はどうかだったのか、ですね。例えば技術の変化では、牛耕農法(牛犁農法)が広がって変化をした、というならそれまでは人力が中心であった、ということがわかります。経済での変化では、青銅貨幣が出てきた(正しくは貝貨に加えて青銅貨幣が現れた)なら、それ以前は物々交換や貝貨が中心であったということです。商業都市が現れた、だったら、それまでは村落中心の小さな邑(都市)があった、と考えることができます。

そうやってどんなに短い文章でも、与えられた条件の通り、考えないといけないということです。さて皆さんが考えた解答はいかがだったでしょうか。もし時間があつたら、1991年の京都大学の類題にもチャレンジしてみてください。

《解答例》

木器・石器が鉄製農具に、また人力のみから牛耕農法に変化した。貝貨に加え青銅貨幣が流通し、農村中心の邑が商業都市に発展して大商人が現れ、小家族での開墾が可能になり土地私有も拡大した。

(90字)